

『成年後見制度中核機関』の設置にむけて

権利擁護を支える重要な手段

成年後見制度とは、認知症や知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない方が地域で安心して暮らせるよう支援するための制度です。自分で大切なことを決めるのが難しい場合に、法律的にその方の権利を守る大切な制度として位置づけられています。国においては、地域での権利擁護支援策のいっそうの充実のため、成年後見制度の利用促進の取り組みをさらにすすめていくこととされています。

福祉から司法への架け橋

地域で生活を営むなかで、私たちは、日常生活における金銭管理や役所での手続きなど、社会生活上の意思決定を行っています。これらの意思決定が難しくなってくると、地域包括支援センターや障害者基幹相談支援センターなどが福祉的相談に対応します。

しかし、人生における節目を迎えて、相続や不動産の手続きなどの必要性が出てくると、法律家の関与が必要となり、成年後見制度に委ねようと法律家をつなげる架け橋が必要になっています。

中核機関設置にむけて

必要なときに適切な権利擁護の支援が行えるよう、本人や家族の希望・状況をふまえて、福祉の支援や保護の方法を見極め、法律的支援が必要と判断されるときには、本人の状況に応じた権限を選択し、最適な方法を検討していくことが求められています。福祉と法律が連携し、本人にとってよりよい支援が受けられるよう、市行政や医師会、三士会（弁護士会・司法書士会・社会福祉士会）、各相談支援機関等と連携しながら、「中核機関」の設置に向けた準備委員会を立ち上げ、地域に必要な仕組みづくりをすすめています。

第2回成年後見制度中核機関
設置準備委員会の風景



マスコット
キャラクター
わかち愛ちゃん

ひきこもり家族会の仲間とともに ～困ったときに、誰かに助けてと言える地域になるように～



日花 睦子さん
(ひばな ちかこ)
NPO法人
大阪虹の会

ひとりで
頑張らなくて
いい。
仲間と
手を携えて

私の次男は、2004年、専門学校に進学したものの、数ヶ月で行けなくなりました。問い詰める母親を避けて昼夜逆転でひきこもるようになり、21年が過ぎました。

当時、私自身は離婚し、父が亡くなり、母の闘病、介護などが重なり、仕事をするだけで精いっぱい生活をしていました。

もともと息子は、人とのコミュニケーションが苦手で、学校でも居場所がなかったようですが、いっしょに暮らしていたのに、そんなことも見えず、聞こうともしてきませんでした。

2016年に退職を機にひきこもり家族会の活動に参加するようになりました。

最初は、ひきこもりをやめさせる方法を探す毎日でした。

けれど、「体験を話しませんか」という依頼に迷って、息子に相談したときの「別にええんちゃう」という言葉で、息子がひきこもっていることを恥じていたのは自分だったことに気づきました。

その後も、家族会の活動に参加しながら、自分の思いを話したり、他の家族の経験を聞いたり

している内に、息子のありのままを尊重していると思うようになるとともに、ひとりでがんばらなくてもいいんだと、肩の力が抜けました。

コロナに感染したときには、3週間に及んだ急な入院にもかかわらず、ひきこもっている息子や、長男家族、そして、家族会の仲間が、いっぱい助けてくれました。息子は、ひきこもっていることに、申し訳ないという気持ちがあったのもあるでしょうが、自分にできることを着実にしながら、ここで生きていてくれるんだな、それは、母親として、とても幸せなことなんだなと思います。そして、私が、元気にやりたいことをやっていることが、息子が安心して暮らす第一歩なんだな、とようやく目が覚めた気がします。

母親として、一番悩んでいる、暮らしが成り立つ方法はなかなか見つかりません。

けれども、今は、息子が本当に困ったときに、誰かに助けて、と言えるように、地域の中でたくさんのつながりをつくっていただけたらいいかな、と思っています。

息子がありのまま生きていける道を模索しながら、私自身の人生を、仲間と手を携えて、楽しみながら生きていきたいです。

貝塚市社会福祉協議会・社協ボランティアセンターでは、より多くの市民のみなさんに活動内容を知っていただき、今後さらにボランティア活動の輪を広げるために、8月4日～8日に「ボランティア活動パネル展」を実施しました。これまで地域に根ざした福祉活動を支えてきたボランティア活動を広く市民のみなさんに周知し、ボランティア活動に対する関心と理解を深め、今後さらに活動への参加の輪が広がっていくことを願い開催いたしました。



いる人たちの表情がとてもいいなと思いました」「大阪万博ミヤクミヤクやきれいな花の折り紙などで飾られ、工夫を凝らして楽しく見せていただきました」などの感想が寄せられました。

ボランティア活動がより身近に
活動パネル展を開催

ケア帽子作製ボランティアを募集!!

☆ enjoy ～楽しむ
「できる人が、できるときに、
できることを」



ボランティアグループ enjoy ～楽しむでは、ケア帽子（主に抗がん剤治療の副作用による脱毛に対処するために使用される帽子、通称 enjoy 帽）の作製と寄贈を行っています。

善意あるみなさまからの寄付による生地をメンバーがひと針ひと針縫いを込めて、1枚ずつ手作りで作製しています。

ケア帽子は、「軽くて通気性が良い」と、とても好評で作製が追いつかない状況です。

私たちといっしょに、楽しくケア帽子作製をしませんか。

～ケア帽子作製に必要な生地を集めています～

enjoy ～楽しむでは、みなさまからタオルや日本手ぬぐいなど、ケア帽子作製に必要な生地の寄付をお待ちしています。

ご協力いただけるかたは、社会福祉協議会までご連絡下さい。



貝塚市社協マスコットキャラクター紹介

ウェルファに新しい仲間が できたよ!!

私たちは、ウェルファ♡
福祉の妖精っていう意味があるんだよ！
たくさんの方々に貝塚市社協のことをもっと知ってもらおうと平成28年6月17日に誕生しました。
貝塚市の花、コスモスを身にまとい、貝殻の帽子をかぶっています。
ウェルファは、仲間みんなで力を合わせて、地域の方々に

ふだんの ーらしの ーあわせ

を運ぶことが お仕事なんです。

そのためにはみなさんの力が必要です。どうぞよろしくお願いします!!



みんなが幸せになるためには、支えあうことが大事だね！

社会福祉協議会
「ささえ愛ちゃん」



ひとりひとりの違いや個性を認め合うことも大切なんだよ。

障害者基幹相談
支援センター
「みとめ愛ちゃん」

私たち
ウェルファの
5番目の
仲間です!!



楽しいこと、幸せな気持ち、
みんなで分かち合えば
もっとハッピーになるよ♡

権利擁護サポートセンターかいづか
「わかち愛ちゃん」



子どもたちが心豊かに育つために、たくさんの人とふれあおう！

子育て支援センター
ひだまり
「ふれ愛ちゃん」



おたがいさまの気持ちで助け合いましょう!!

ファミリー
サポートセンター
「たすけ愛ちゃん」

ひとりで悩まないで！

貝塚市から委託を受けた
相談員(コミュニティ・サ
ルワーカー)が電話・訪問等
により相談に応じます。



お気軽にご相談ください。

072-439-0294

相談時間：8時45分～17時15分（土日祝除く平日のみ）

相談は無料 秘密厳守

仕事

・なかなか仕事が見つかない。
・長い間働いていないので、自信がない。

お金

・収入より借金がおくある。
・生活費に困っている。

家族

・離れも就かず外出もしない家族が心配。
・近所の人と交流を持ちたい。

健康

・介護や健康面のこと
で不安がある。
・病院に通院している
が治療費が高い。

住まい

・家賃が払えず、家を出ていかなければ
ならない。
・電気、ガス、水道を
止められている。

上記以外のこともご相談ください。



社会福祉法人 貝塚市社会福祉協議会